

ベストクラス選定理由書

作成者： 陣内和美、天野海輝、上山俊一、上月徳子、福本佳将、屋成祥子、川内充延

科目名称 学校における特別支援教育への対応と方法(昼間(①)クラス) (担当教員名：井澤 信三、山本 真也)	
課程： 大学院(専門職)	開講時期： 後期
授業形態： 講義・演習	授業規模： 31人以上
インタビュー対象教員名 井澤 信三、山本 真也 (実施日時： 9月8日(水)9:00~9:45 ; 実施場所： Zoom による実施)	
インタビュー対象受講者名 門脇 大輔、大牧 愛由美 (実施日時： 9月8日(水)9:00~9:45 ; 実施場所： Zoom による実施)	
選定理由 本科目は、受講者が40名ほどで、色々な地域から集まった小・中・高校・特別支援学校という、特別支援教育に対して幅広い意識を持った現職教員のみで構成されている。その特徴を生かし、ディスカッションを多く取り入れた授業形態がとられた。6月に行われたベストクラス検討会にて、授業評価アンケートの評価値の高さ、受講者の「現場に役立つ学びであった」という内容の自由記述が多く見受けられたことを踏まえて、本科目をベストクラス候補として挙げた。	
【受講者の自由記述より】※一部を抜粋 <ul style="list-style-type: none"> ・1つずつの知識が構造化され、理論と実践が往還できる工夫が随所にあった。 ・教育現場で対応することをイメージしながら講義内容を聞くことができた。 ・「〇〇ってどういうことでしょうか？」と問い返されることで、知っているつもりになっていたことについて深く考えることができた。 ・他の地域の様子や、違う校種の先生方の考えを聞く機会が持てた。 ・自分の意見と他者の意見を議論する場があり深い学びに繋がった。 	
【担当教員・受講生へのインタビューより】 <ul style="list-style-type: none"> ・理論と実践が往還した授業と言うのが、この授業の一番の強みだった。 ・様々な教員に対応するために、基本的(根本的)なことを問う授業と、理論をどのように学校で実践していくのかイメージできるような応用的なことを扱う授業を明確に分け、かつ、両方が構造化されるよう授業を構成した。 ・これまでの実践の中で、子どもや保護者に対応することに大変な思いをした教員に対しても、今後できることを考えていくことで安心させられるようにした。 ・グループワークで、大学教員の持っていないリアルな現場感覚の情報と、大学が提供した理論と実践の情報を往還させることもねらいとしていた。また、それが達成されていた。 ・受講生の文脈を大切にしてくれることから、この授業には「授業の受け易さ」があった。 ・他校種・他地域・多世代の違いや連携において新たな視点、エビデンスが得られた。 	
【総括】 本科目は、①理論とともに、実践を想定した具体的な取り組みや考え方が思考できるよう授業構成が工夫されていた。②現職院生にとって、自分自身の経験について振り返り、問い直すような学びになっていた。③他者との対話を通じて、所属する校種とは異なった視点などの多様な視点に触れ、受講生・教員共に新たな学びに繋がっていた。ということが判断されるため、ベストクラスとしてふさわしいと結論する。	